

1 プログラム作成の背景・ねらい・プログラムの対象

(1) 知床・うみ、やま、かわ環境教育プログラム作成の背景

根室支庁管内羅臼町と網走支庁管内斜里町にまたがる知床の世界自然遺産登録の実現に向けて、平成16年(2004)1月に国と北海道が策定した「知床世界自然遺産候補地管理計画」では、原生的な自然環境の保全と適正な利用の両立、世界遺産にふさわしい質の高い利用プログラムの確立や情報提供・普及啓発を行うことが必要とされています。

また、知床世界自然遺産候補地地域連絡会議や知床国立公園利用適正化検討会議において、知床らしい環境教育プログラムの開発や人材育成が必要であるとの意見がありました。

このような地域での検討を踏まえ、根室支庁では平成16年(2004)度に学識経験者、教育関係者、専門家で構成する「知床うみ・やま・かわの環境教育検討委員会」を設け、知床の特色ある環境教育プログラムの開発、地域に根ざした環境教育の推進体制のあり方等について、検討を行ってきました。

そのような中、知床はヒグマを頂点とする食物網の形態や世界的にも貴重な生物が生息するなど、今もなお原生的な自然が残されており、その「生態系」と「生物多様性」が他に類似したものがないことが認められ、平成17年(2005)7月17日に国内3番目、道内では初の世界自然遺産に登録されました。

(2) ねらい

知床は流氷がもたらす恵みにより、海から陸につながる生態系のバランスの下で多様な生物が混在している重要な地域です。その「生態系」と「生物多様性」が評価され世界自然遺産に登録されましたが、それだけではなく、知床の主要産業である漁業は流氷から始まる生態系による自然の恵みを持続的に利用しており、知床の自然に深く関わっています。

知床の自然を未来に引き継ぐためには、そこに生活する地域住民と共存した環境保全の活動や自然環境に負荷をかけないルール・マナーの実践などの行動が必要です。

このプログラムは、環境教育により知床を「知る」ことが大切であり、**保全意識の醸成**「知床の自然の中で体験を通じて、知床の環境保全の大切さに気づく」ということをねらいとしています。

ねらい 保全意識の醸成

知床の自然の中で体験を通じて、知床の環境保全の大切さに気づく

(3) プログラムの対象

知床の自然環境の保全の取り組みは、大人を中心とした取り組みだけではなく、将来において、知床の貴重な自然を引き継ぎ、知床の保全活動の担い手となる子どもたちに対して、知床の素晴らしさや大切さをしっかりと伝えていくための取り組みが重要です。

次世代を担う子どもたちを対象に、学校の総合学習の時間を利用して、知床の魅力ある自然を題材とした体験型プログラムを実践し、知床の自然は地域産業にも結びついているということを知り、環境の大切さを知ってもらいたいと考え、学校の先生方などの指導者の手引きとなるよう作成しました。

学校教育の場や体験型の環境学習を実施している機関、団体などで活用して頂きたいと思っております。